

第9章 Netscape Composer を使ってみる (2/2)

ここでは今まで使ってきた Composer の機能を使って、ちょっと大きな Web ページを作ってみましょう。LAN¹でよく利用される Twisted-pair cable を作る手順を紹介する Web ページを作ります。

9.1 Twisted-pair cable の作成

目指す Web ページの構成は次のようにします。

- Twisted-pair cable 完成写真を最初に載せる
- 作成に必要な工具・材料一覧を示す
- ストレートケーブル作成方法を縷縷、画像で紹介する
- クロスケーブルの結線写真を示す
- 結線のテスト結果を画像で示す

素材はデジタルカメラで集めましたが、最近は安くなりましたので揃えておくとも便利かもしれません。スキャナもあると便利ですが、他人の著作物を取り込んで勝手に自分の Web ページに使用してはいけません。

9.2 材料を取り揃える

素材となる画像をお見せします (図 9.1~9.7)。全て JPEG ファイルになっています。

ケーブル完成図 — cccable.jpg(図 9.1),

必要な道具 — caulker.jpg, stripper.jpg, nippers.jpg(図 9.2)

材料 — rj-45.jpg, cable.jpg(図 9.3)

ストレートケーブルの作り方 — making1.jpg~making6.jpg(図 9.4), making7.jpg~making12.jpg(図 9.5)

クロスケーブルの作成 — cross.jpg(図 9.6)

結線のテスト — straight_test.jpg, cross_test.jpg(図 9.7)

¹Local Area Network の略称。



図 9.1: ケーブル完成図



図 9.2: 工具

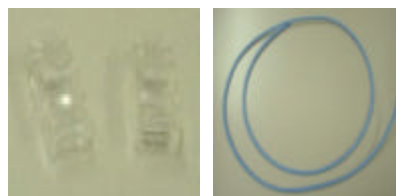


図 9.3: 材料

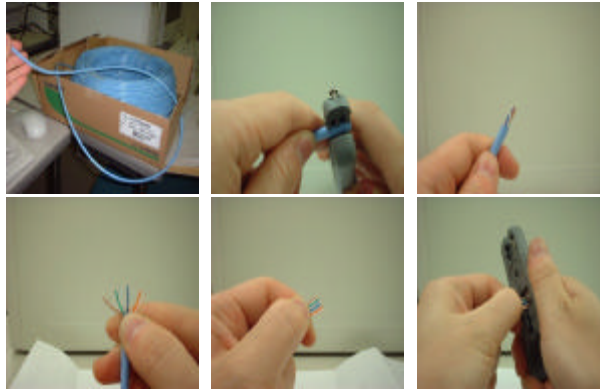


図 9.4: ストレートケーブルの作り方 (1/2)

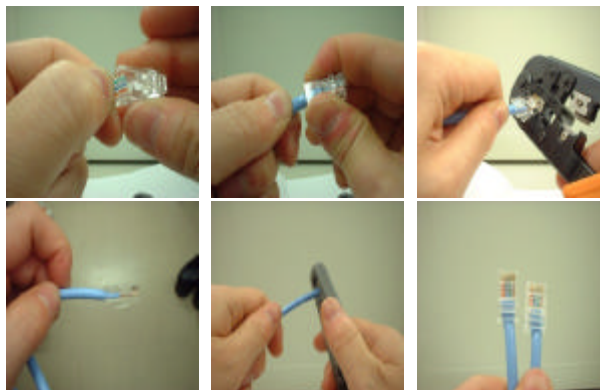


図 9.5: ストレートケーブルの作り方 (2/2)

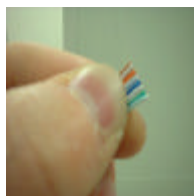


図 9.6: クロスケーブルの結線



図 9.7: ケーブルのテスト

9.3 Web ページを作成する

適宜説明を加えながら素材の写真を並べていきます (図 9.8, 9.9)。その前に、画像は作成する HTML ファイルと同じフォルダ (ディレクトリ)、もしくはそれより下位のフォルダ (ディレクトリ) にまとめて置いてあることを確認して下さい。そうでないと、Composer はうまく相対パスに変換してくれず、「絶対パスになってしまうぞ!」という旨の警告を發します。

練習問題

1. 図 9.8, 9.9 の Web ページには改善が必要であると思われる。自分なりに改善点を洗い出し改良せよ。一例は次章に提示したようにフレームの機能を使うことである。
2. (自由課題) 第 2 章, 第 3 章で行った, テキストエディタによる HTML ファイル作成方法を解説する Web ページを作れ。

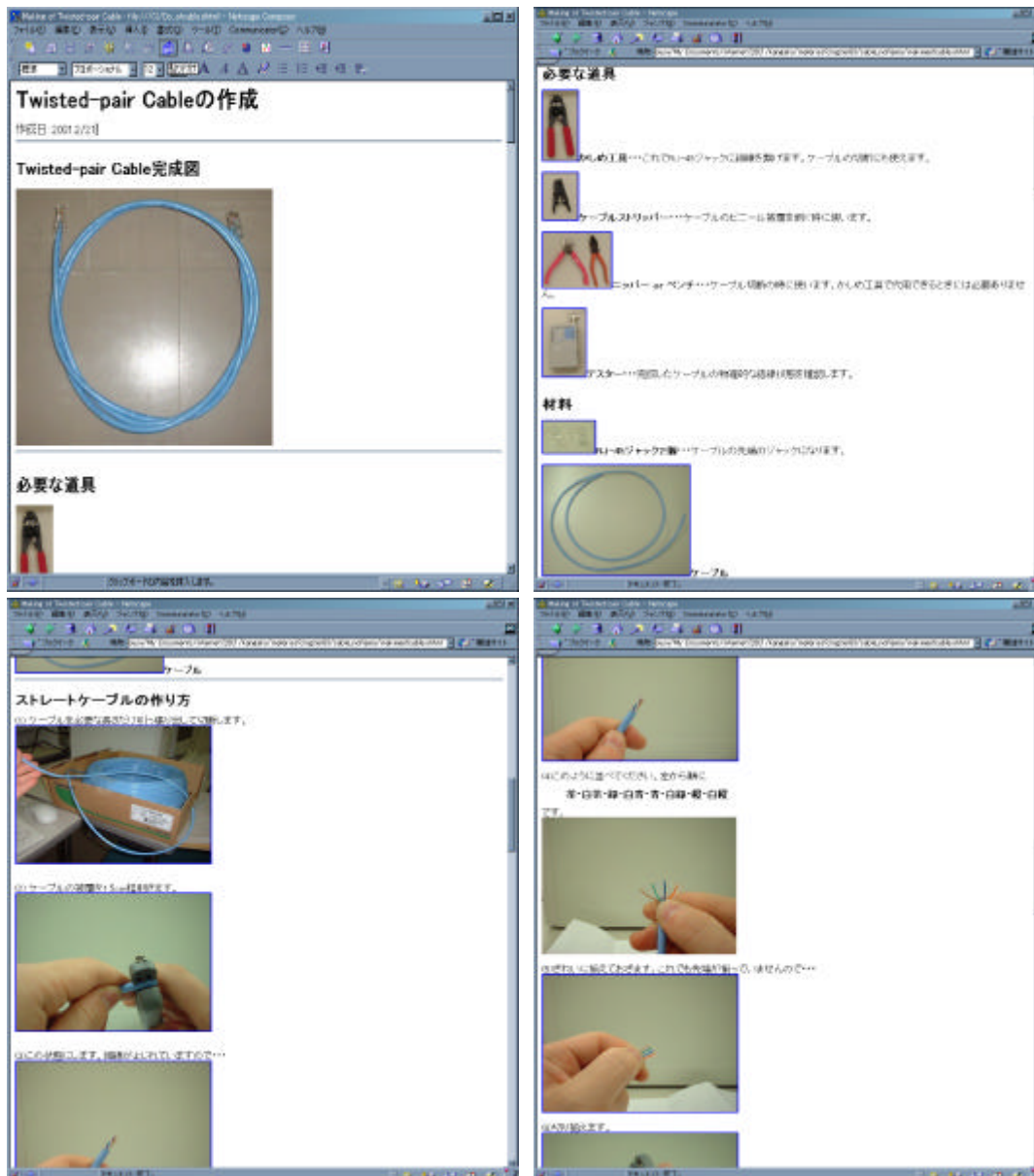


図 9.8: 完成した Web ページ (1/2)

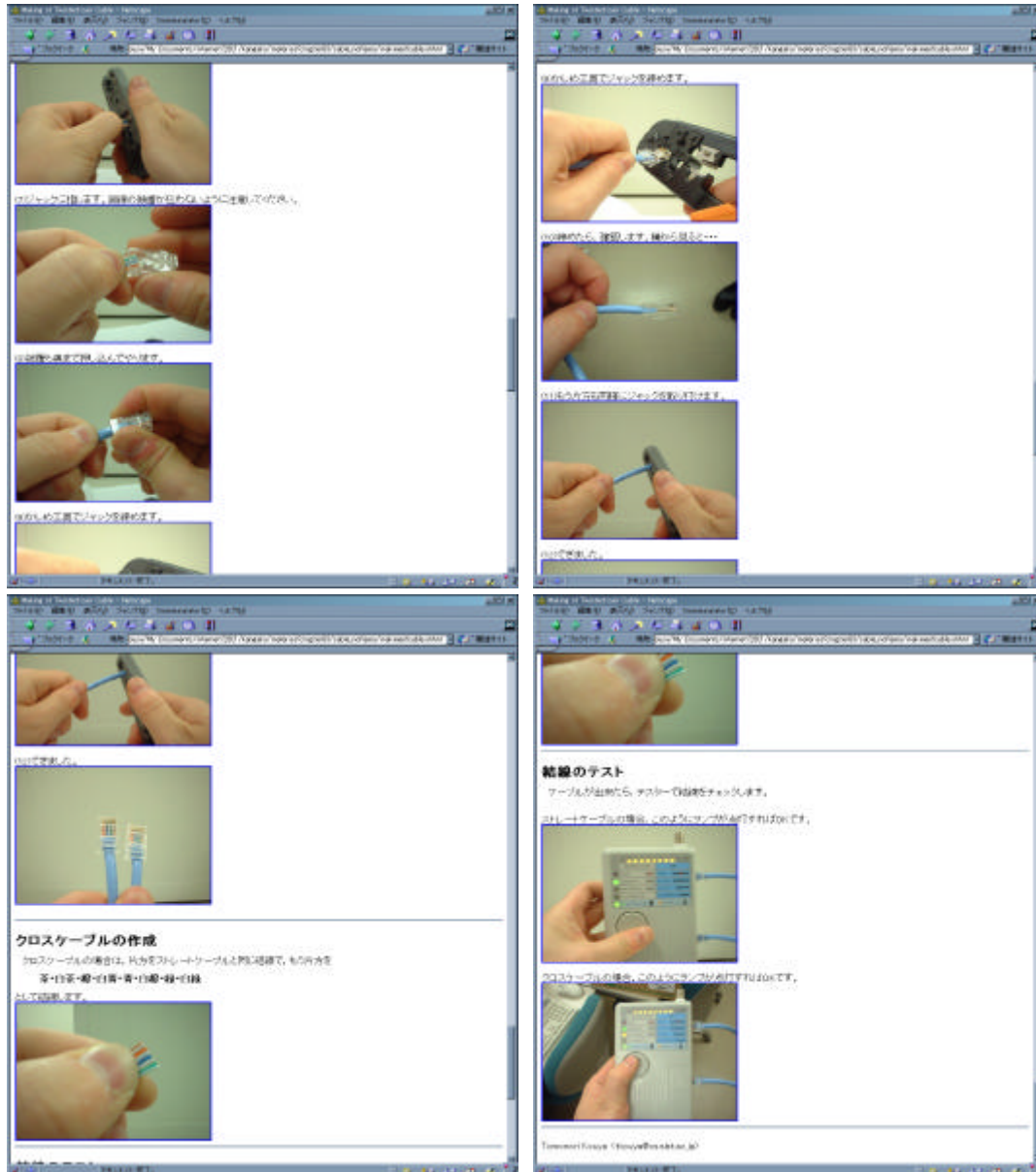


図 9.9: 完成した Web ページ (2/2)

コラム★ Accessibility を考える

最初のネックは液晶画面だった。

「あくまで電話」にこだわった私たちは、液晶画面もそれまでより少し大きいくらいのもをイメージしていた。あまり液晶画面が大きいと、ユーザーが手にしたとき電話というには違和感を感じさせるからだ。

そうは言いつつも、私はいままでの携帯が表示していた以上の文字数を要求した。

「横八文字、縦六文字はほしいですね」

松永真里 (「i モード事件」より)

Accessibility = アクセスのし易さ

コンピュータの操作は、昔は文字(コマンド)を打ち込んで行っていました。それが初心者にはわかりづらいということで、現在ではその殆どがグラフィックベースの、所謂 GUI(Graphical User Interface)に移行しています。その為、視覚障害がある人にはかえって利用しづらくなった、という話を聞いたことがあります。

Webの世界ではよく Accessibility(アクセシビリティ)という言葉が使われます。直訳すれば、「アクセスのし易さ」、ということになるのですが、狭義には五感に障害がある人でも Web ページの内容を伝えることが出来るかどうか、といった意味で使用されます。よく、視覚的な効果を狙った Plug-In(Shockware Flash 等)で構成された Web ページが非難の対象になりますが、それはこの Accessibility が劣っているからに他なりません。最低でも文字読み上げソフトが対応できるよう、代替のテキストを用意しておく必要があります。

「障害者はマイノリティ(少数派)であるから、マジョリティ(多数派)である健常者だけに対応できていればよい」という考え方もあるでしょう。しかし、これは自分の Web ページのお客さんを自ら排除していることに他なりません。

マジョリティを相手にすることと、マイノリティにも一定の配慮をすることは矛盾しません。また、マイノリティへ配慮することはマジョリティを増やす効果もあります。それに、健常者が全て同じ条件にあると思うこと自体もおかしな話です。

Web の Accessibility とは？

五体満足な人でも、Web にアクセスする環境はまちまちです。今では携帯電話が飽和状態といってもいいぐらい、この日本では普及していますから、マジョリティを考えるならば、自宅や職場で

PC からアクセスしている人よりも携帯ユーザを考えるべきでしょう。都市部ではブロードバンド化が進む一方で、過疎地では未だ ISDN すら満足に使えない地域も残っています。古い Macintosh を使っている人もいるかと思えば、最新版の Pentium IV を搭載したゴツイマシンをぶん回している人もいます。そう考えていくと、果たして多数派とは何なのか、だんだん分からなくなってきます。

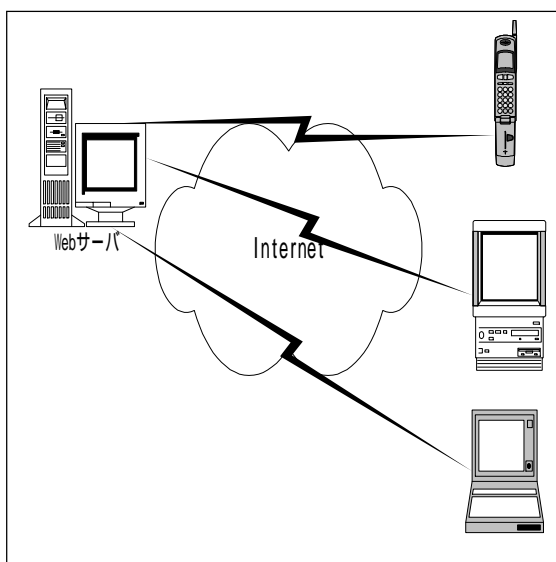


図 9.10: Web ページを見る人は千差万別

そこで一つの原則を提案しましょう。

自分の想像する一番貧弱な環境でも余計なストレスなしに内容が判明する Web ページを作るべし！

貧弱な環境とは例えば次の様なものです。

貧弱なディスプレイ PC の最低レベルは 640 × 480, 16 色程度。携帯になると画面はさらに小さく、モノクロであることも考えるべきです。

貧弱なブラウザ 今でこそ機能豊富な Netscape Navigator や Internet Explorer ですが、初期の頃は <TABLE> タグも認識できず、画像は GIF 形式でしか利用できない時代がありました。現在はそこまで極端に考えなくとも良いとは思いますが、特殊なプラグインを必要とするものは見てもらえない可能性が高いと考えるべきでしょう。

貧弱な帯域幅 携帯ですと 9.6kbsp 程度のスピードしか得られないと考えるべきです。また、いくらブロードバンドが流行しているといえど、コンテンツを掲載する Web サーバの性能やそこに直結する回線容量が貧弱であれば、末端ユーザ側の回線に余裕があっても何にもなりません。

貧弱な環境を考慮しておくこと、それ以上の環境を持つ人も取り込むことが可能になります。また、最低レベルを上げて行く事で、切り捨てられてしまうユーザ環境の境界線も見えてきます。「俺のページは携帯ユーザは考慮しない!」「基本的には自分のPC環境程度のユーザを主体にするが、携帯ユーザにも最低限の情報は判別できるよう、テキストを主体に作る」という割り切りをする意味でも、他人の貧弱な環境に思いを馳せるようにしましょう。

誰のための Web ページですか？

Web ページは自分以外の第3者に読んでもらうための表現手段の一つです。Web ページをサーバにアップロードする前に、もう一度考えてみましょう。

- 貴方が作っているそのページは、一体誰に向かって発信するものなのでしょうか？
- リッチな環境に頼りすぎて、貧弱な環境のお客さんを排除していませんか？
- 貴方の Web ページは、他人に理解できる内容になっていますか？

Accessibility を向上する究極の目的は、他人を思いやることで自分の為にする、ということなのです。